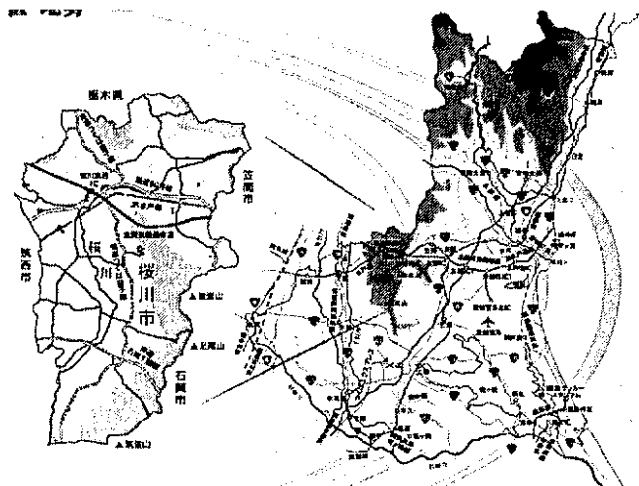


## 政務活動調査報告書

芦塚 典子



真壁街の中心地交差点に建つ、洋風建築の「旧真壁銀行」昭和2年に、第50銀行真壁支店として建てられ、昭和31年から61年まで郵便局に代わり、現在真壁のランドマーク的存在  
 鋳物製の赤いポストが時代を感じさせる。現在、観光案内所として活躍、休日は貸自転車屋として観光客に喜ばれている。



茨城県初となる国の重要伝統的建造物群保存地区の「真壁の町並み」をはじめ、2月から3月にかけて開催される「真壁のひなまつり」は10万人の観光客が訪れ、国指定文化財・天然記念物「桜川のサクラ」など、数々の歴史的遺産や名所旧跡が現存している。

日時 平成26年12月26日(金)  
 場所 茨城県桜川市真壁町飯塚911番地  
 内容 真壁の文化財保護と都市計画について  
 講師 桜川市教育委員会文化財課長 石川 文雄  
 桜川市教育委員会文化財課 主任 木村 智史

### 桜川市の概要

桜川市は、平成17年10月1日、2町1村で合併、茨城県の中西部に位置し、北は栃木県、東は笠間市・石間市、西は筑西市・栃木県、南はつくば市と隣接している。

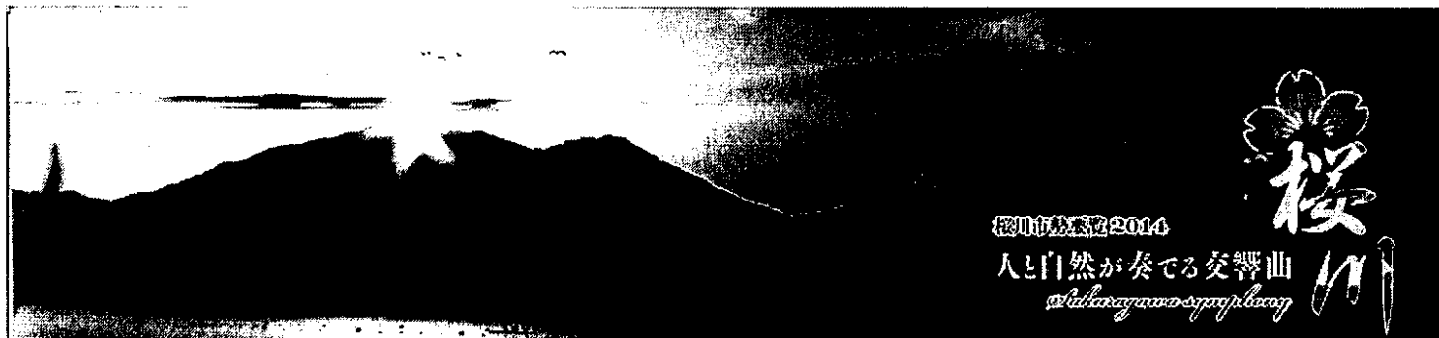
首都圏から約70km圏内にある。

市の南北に筑波山系の山々が連なり、良質のみかげ石(花崗岩)の産地として知られ、また、平野部の肥沃な土地を利用した農業も盛んで、米や紅小玉スイカなどが特産品となっている。

面積 179.78km<sup>2</sup>  
 人口 43,092人(2014年12月1日)  
 世帯 15,204世帯  
 人口密度 240人/km<sup>2</sup>  
 北緯 36度19分38.3秒  
 東経 140度5分26秒  
 年間予算 平成26年度当初予算  
 一般会計 159億3,000万円  
 特別会計 112億5,658万9,000円  
 企業会計 13億9,054万8,000円  
 (嬉野市)

### 平成26年度予算

一般会計 114億9,800万円  
 特別会計 54億4,050万円  
 企業会計  
 面積 126.5km<sup>2</sup>  
 人口 27,642人(2014年12月1日)  
 世帯 9,869世帯  
 人口密度 218人/km<sup>2</sup>  
 北緯 33度7分41.1秒  
 東経 130度3分36.3秒



桜川市公式ウェブサイト2014

人と自然が奏でる交響曲

[www.city.sakuragawa.lg.jp/](http://www.city.sakuragawa.lg.jp/)



## 桜川市真壁伝統的建造物群保存地区と都市計画



バラエティー豊かな真壁の伝統的建造物群



真壁のひなまつり（平成15年より）  
「寒い中真壁に来た人をもてなそう」というきっかけで始まったイベント。  
展示は、店舗や個人が行い、ひなまつり実行委員会がマップ作製や交通規制等を行っている。  
始まった当初は21軒であったが、次第に協賛する人が増え、現在は150軒の家が参加している。  
女性の参加が多い。←センスが良くなる。  
来訪者はひなまつり一か月間(2/4～3/3)で10万人を超える。

「利益優先にしない」  
「売れ売れ主義にしない」  
「何かを売りつけてやろう」ではなく  
「いらっしゃったお客様に楽しんでいただきたい」



紫尾小学校の子どもたち201名が作った吊し雛旧真壁郵便局に飾られた。

### 桜川市の文化財保存・活用に関する施策

平成6年 真壁城址 国指定史跡となる A=12.5ha  
平成9年 真壁城址発掘調査・修復工事開始  
平成12～16年 登録文化財制度への取り組み  
平成15～17年 伝統的建造物群保存対策調査  
平成19年 伝統的建造物群保存地区保存条例  
平成21.3 歴史的風致維持向上計画認定  
平成21.9 桜川市真壁伝統的建造物群保存地区決定  
平成22.6 全国で87番目の重要伝統的建造物群保存地区に

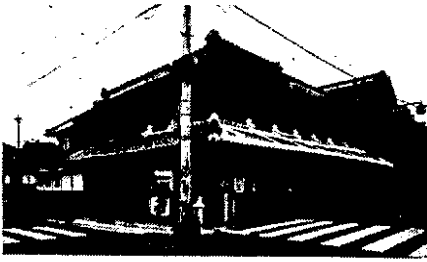
### 桜川市真壁伝統的建造物群保存地区の概要

地区範囲 桜川市真壁のうち約17.6ヘクタール  
人口 258世帯 731人  
種別 在郷町  
特徴 真壁町は中世の真壁氏の城下町が起源  
江戸時代(400年前)からの町割り  
土蔵、見世蔵、木造店舗、洋風建築等の  
バラエティー豊かな建造物群  
伝統的建造物 登録文化財 108件  
工作物 57件  
環境物件 樹木 5件



回数	来訪者	年
第1回	14,000人	平成15年
第2回	50,000人	平成16年
第3回	80,000人	平成17年
第4回	80,000人	平成18年
第5回	100,000人	平成19年

登録文化財 108軒を活かす



潮田家 2階の外壁を厚く土で塗り漆喰仕立てとしている代々呉服商、雑貨商を営んでいた



川島書店 の 見世蔵

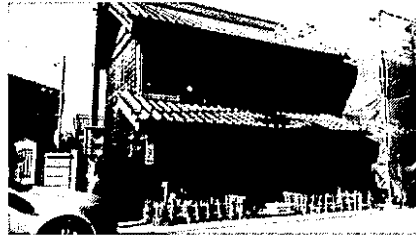
真壁の「御陣屋通り」に位置する。初代は江戸末期には、生薬店を営んでいた。荒物屋を経て、現在書店を経営している。一階正面は、北側に幅広い戸袋を設けるほかは、中央に柱を立てただけの全面開放で、アルミサッシ戸が入られている。外壁は、土塗り白漆喰仕上げの土蔵造りで、北側および東側は其上をさらさら子下見板で覆っているが、当初はすべて黒漆喰仕上げであったと伝えられる。真壁には、合計11の見世蔵が現存するが、その中でも最も整った典型的な江戸型の見世蔵といえることができる。



橋本旅館 1階を改装して“カフェはしもと”を運営 2階は旅館の客室

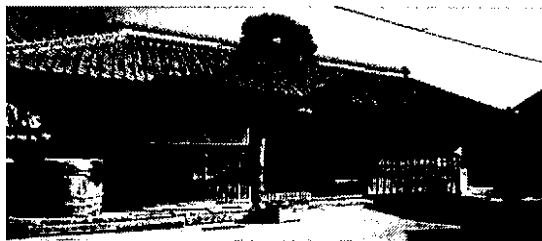


伊勢屋旅館 幕末から真壁では最も知られた料亭であった。現在は旅館を営む。



木造店舗  
旅籠ふるかわ: 仲町休憩所  
大正時代に建てられた伝統的な木造真壁づくりの店舗で、後ろ側に平屋の住宅が続く。基本的に江戸時代の町家形式。

木造店舗の  
大和屋薬局



鈴木酒造



西岡本店

西岡本店  
創業天明2年(1782)  
近江商人の酒蔵  
米蔵(玄米蔵)  
脇蔵(白米蔵)  
平屋部分(店舗・事務所)



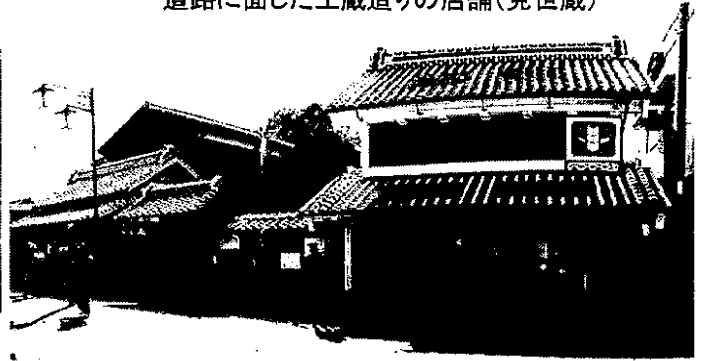
村井醸造  
初代は近江商人で、現在17代目  
右、大谷石造りの石蔵は、住民のイベントに開放されたり、一部が工芸サロン「蔵布都」が開店している。

# 真壁の108の登録文化財を活かす



なまこ壁の美しい土蔵倉「土谷家」  
江戸時代千葉県佐原から移り住み、代々造り酒屋を営んできたが、3代前に廃業している。海鼠壁の保存もよく、軒の造りも特徴的である。

「三輪家」履物屋さん  
道路に面した土蔵造りの店舗(見世蔵)



## 登録文化財「108軒」のうちの活用状況

1	谷口家	谷口製糸所と旧家	25	潮田家	間口の大きい元呉服商
2	大森家	大正初期の面影を残す	26	密弘寺	貴重な江戸後期の仏堂
3	谷口義衛家	明治中期の珍しい建築	27	塚本茶舗	明治中期の本格的土蔵
4	増渕有一家	大工増渕が自ら建築	28	木村家	天保の大火後の見世蔵
5	橋本旅館	典型的な昭和初期の旅館	29	入江家	背の高い意匠をもつ大正建築
6	桜井家	古式を保ち造りの良さが特徴	30	旧真壁郵便局	真壁のランドマーク
7	佐藤家	細部の意匠と本格的薬医門	31	川島書店	典型的な江戸型の見世蔵
8	増渕家	棟札により明治初期の建物	32	川島洋品店	江戸末期頃の土蔵
9	中村家	江戸末期の貴重な建物	33	山中家住宅	長屋門と際立つ土蔵
10	関根家	明治初期の典型的な町屋	34	三輪家	典型的な大正初期の建物群
11	中村家	伝統的な町屋	35	星野家	書院造風の主屋を持つ
12	西岡家	明治中期の建物群	36	村上家	明治後期の貴重な建物群
13	旧花穂小学校	明治期の小学校校舎	37	市塚紀夫家	店舗の南側に養蚕場を持つ
14	出川家	昭和初期の特徴を持つ建物	38	平井家	明治中期の伝統的町屋
15	鈴木醸造	江戸末期の農家住宅	39	土屋家	海鼠壁を用いたお助け蔵
16	谷田部家	江戸期の格式を示す建物	40	小林商店	昭和初期の町屋
17	鈴木家	明治期の建造物群	41	細谷家	長屋門と農家風づくり
18	猪瀬家	明治期の本格的な薬医門	42	市塚章一家	海鼠壁を用いた長屋門
19	塚本家	大正中期の土蔵造り建物	43	市塚政一家	比較的大規模な長屋門
20	根本医院	江戸期の高麗門	44	市塚昌宏家	古式を留める貴重な薬医門
21	土生都家	明治期の高麗門	45	北岡家	創建当初からの町屋形式
22	村井醸造	17世紀以来の造り酒屋	46	西岡本店	明治初期に建設された醸造場
23	伊勢屋旅館	明治期の土蔵造りの料亭	47	小田部鑄造	梵鐘・半鐘・天水鉢などの工芸
24	高久家	典型的な関東の町屋			

## 真壁の町並み保存と塩田津の可能性

平成17年10月1日、真壁郡真壁町、真壁郡大和村、西茨城郡岩瀬町3町村が合併し、新市桜川市が誕生している。桜川市は、鏡が池に源を発する桜川両岸に広がり日本百名山の一つ筑波山を望む、人口5万の市である。

その中で真壁町は、特に中世の趣が感じられる町、そして「石の町」として夙に知られている。

昭和53年開館の真壁町歴史民俗資料館会館により、文化財の展示啓蒙活動がある。合併までに92回にわたる企画展を開催し、特に平成4年3月の「真壁の町並みと景観」という展示に注目され、町内に残る歴史的建造物が多数調査され、伝統的建造物群保存地区選定への一歩となった。

同館の開館と同時に町史編纂事業が開始され文化財伝承意識が住民の間に醸成されていった。

平成6年10月に、県史跡真壁城址が国史跡となり、史跡整備事業が開始された。

平成11年度からは、史跡真壁城址西側城下に広がる歴史的建造物に対して登録有形文化財制度を導入した。

平成11年度 4件 平成12年度 21件

平成13年度 7件 平成14年度 13件

平成15年度 26件 平成16年度 33件

の登録を受け総数108棟を超える。

地域住民の側からの活動を見れば、

平成7年5月 「ディスカバーまかべ」

「町民に真壁の素晴らしさを啓蒙し、その景観を子孫に残していくこと。また同時に整備と活性化を図り、日本を代表する地域とし、町民の誇りと財産にしていく」ことを目的とする。

平成13年5月 「登録文化財を活用する会」

平成15年9月 「町並み案内ボランティア」  
年間5千人を超える案内を行う。

平成15年6月 「まちづくり真壁」

平成15年2月～3月 「まかべの雑祭り」

真壁の歴史と文化を伝え残していこうという住民の意識が、様々な形で「まちづくり」に対する活動となって平成17年に「伝建」に選定され、市民の力が主体になって行政に働きかけ、市民の力で「まかべの雑祭り」は年々盛大になり、来客数も増えている。また、行政は、東日本の災害復旧を年20件を超す進捗状況で、登録文化財等を修復し、「伝建」の町の美しい景観を取り戻す整備をしている。

塩田津も歴史と文化の資源が多く散在する「伝建の町」である。「伝建」に対する市民の思いが、様々な形で「まちづくり」に新たな施策を見出しているが、嬉野市全体の市民の「伝建」に対する意識の醸成はまだ充分だとは言えない。また、行政の「伝建の町」に対するインフラ整備と「伝建の町」を活かす方向性が定まっていない。

観光立市の中で、「伝建の町」の重要性を見出し、活用に積極的に取り組めば、市全体の活力につながる。

## 塩田津で活かせる真壁の保存の構想

東日本大震災から見えた課題<真壁>

○業者(設計者、施工者)

→ 平時なら不足することはないが、災害時には不足する(特に左官職人)

○被害を最小限に抑えるための応急措置の必要性

→ 余震や悪天候により、小さな被害だったものの被害が拡大する。

○定期的な修理の重要性

今まで定期的に修理・メンテナンスしていなかったものは被害が大きい。

伝統的建物でも、定期的に修理・メンテナンスしていたものは被害が少ない。

→ 建物が古いから被害が大きいとは一概に言えない。維持するための定期的な修理・メンテナンスは地震対策の一つの手段。

○伝統的建造物の構造補強の推進

通りに面して全面開口する見世蔵や木造店舗は、傾倒したものもある。

→ 開口部の壁量が不足するため、耐震的にも構造的にも弱い。

開口方向にバランスよく耐震壁設置等が必要。

### I. 町並み保存の方向性

塩田津伝建地区には、豊かな歴史と文化がある。優れた建築によって構成される町並みがある。古くからの町割りもそのまま残っている。町並みに内在する寺社、樹木、石塔・石仏、さらにかつて塩田津を繁栄に導いた塩田川の流れ、塩田津を見下ろす靉岳の山々の景観も素晴らしい。また、町並みの調和を乱し、景観を阻害するような巨大な建築が存在しない。魅力的な居住環境が塩田津には現存している。

しかし、この魅力的な居住環境は崩れやすく、失われやすいものである。

現在魅力的な環境を維持するためには、何らかの積極的な対策が必要である。

保存を基調としたまちづくり、すなわち優れた資源を保存して適切に維持を行うと同時に、少しずつ他の部分にも手を入れて整備していくようなまちづくりを積極的に行うのが最善の策である。

### II. 今後の課題

①歴史的資源の残存特性に応じた地区設定を行う必要がある。

②町の歴史の変遷の全体を評価し町を捉えるべきである。

③景観法に基づく政策が必要である。

④高齢化、少子化の動向を勘案すべきである。

⑤文化財を修理し、さらに塩田津の魅力を活かすビジョンを創る必要である。